

平成27年度 中部森林技術交流発表会 発表課題一覧表

第1日目 (2月2日)

発表部門	番号	課題名	所属	発表概要	開始時刻	
森林技術	1	奈良本山ヒノキ人工林天然更新試験地における施業について	東信森林管理署 信州大学 農学部	ヒノキ人工林天然更新試験地の後継樹である下木が密生し、樹高成長が見られたことから、平成27年度に2.63ha終伐を行い、上木伐採・搬出技術の確立を目指し、伐採区域内にプロットを設定し、更新木の損傷調査を実施した結果等を紹介。	10:45	
	2	カラマツコンテナ苗の成長調査について	南信森林管理署	カラマツの裸苗とコンテナ苗を下刈有り無しのプロットを黒河内国有林と編笠山国有林に設定し、根本径と苗長の成長調査を行った。	11:00	
	3	コンクリート構造物施工困難箇所における改良工事の取組事例	木曾森林管理署	コンクリート供給困難地域における代替工法の取組について、従来のコンクリート構造物による工法と、主構造に生コンクリートを使用しない工法とを比較検討した。	11:15	
	4	7.9 南木曾町豪雨災害発生直後の復旧～発生直後からの経過と対応～	南木曾支署	7.9 南木曾町豪雨災害発生直後からの経過や最上流部での難工事に対応した施工方法、さらには流域内の工事関係者が連携した取組、地域への情報発信等についての事例報告。	11:30	
	5	鶯ヶ巣(とびがす)大崩壊地の自然再生緑化への取り組み	伊那谷総合 治山事務所	強アルカリ性土壌、併せて鹿の食害も見られる崩壊地での、現地緑化～森林化までを目指した緑化工法を計画・施工した事から、実行内容について報告します。	11:45	
	休憩 (12:00～13:00)					
	6	里山における山腹崩壊地の復旧について	愛知事務所	治山工事の実施に当たり、保全対象や地域社会との連携を図るとともに、里山での景観にも配慮した工種の選定及び新工法に取り組んだ実例を報告。	13:00	
	7	ヒノキコンテナ苗の植栽工期調査について	森林技術 ・支援センター 岐阜県 森林研究所	岐阜県森林研究所と連携し、植栽専用器具の違いや傾斜及び石礫の有無など条件因子の違いを前提とした、ヒノキコンテナ苗の植栽工期を調査したことから結果を報告する。	13:15	
	8	植栽後の初期成長に優れるヒノキ・コンテナ苗育成条件の検討	岐阜県 森林研究所 森林技術 ・支援センター	ヒノキコンテナ苗の品質を評価するため、育苗時と植栽後の成長経過から初期成長に優れる育苗条件を検討したので、その結果を紹介する。	13:30	
	9	ヒノキ・コンテナ苗の活着および初期成長に及ぼす植栽時期の影響	岐阜県 森林研究所 森林技術 ・支援センター	岐阜県の寡雪地域におけるヒノキ・コンテナ苗の通年植栽を検討するため、4月、7月、11月にコンテナ苗、4月に普通苗を植栽し、活着率と2成長期間の成長を比較した。	13:45	
	10	低コスト造林に向けた取り組み	飛騨森林管理署	飛騨森林管理署における低コスト造林に向けた獣害対策やコンテナ苗の普及拡大に向けた取り組みと課題について考察する。	14:00	
	11	二次林及び針広混交林におけるウダイカンバの活用を目指して	富山森林管理署	二次林及び針広混交林において先駆的に発生したウダイカンバの生長過程及び材の品質を調査し、将来の木材利用に向けた目標径級及び伐期齢を仮定することにより今後の施業方法について考察した。	14:15	
	12	30年経過した本数密度実験林の比較	森林技術 ・支援センター	本数密度が異なる実験林(2000本区、3000本区、4000本区、5000本区)について本数密度と生長量等の比較を行った。	14:30	
13	人工林ヒノキ高齢木の樹幹解析結果について ー赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林の事例ー	岐阜森林管理署 森林技術 ・支援センター	岐阜県で最古の人工林ヒノキとされている、赤沼田天保ヒノキ植物群落保護林の立ち枯れ木について、樹幹解析を行い成長の推移を調べたことから、その結果を報告する。	14:45		
休息 (15:00～15:15)						
14	ヒノキ天然林における結実豊凶と小面積皆伐後の実生の消長	森林技術 ・支援センター 木曾森林管理署	森林の更新過程や天然更新技術を検討するうえで、種子生産、発芽、実生定着、稚樹の成長などの更新初期過程は非常に重要であり、ヒノキ天然林において、結実豊凶パターン、実生発生・消失過程の調査を行った。	15:15		
15	御岳トウヒ・シラベ天然生林 林分成長固定試験地 ～60年間の推移～	森林技術 ・支援センター	亜高山帯における天然生林分の調査開始から60年目となる本年度までの林分推移について報告する。	15:30		
森林ふれあい	16	UAV(無人航空機)を活用した調査業務の効率化について	中信森林管理署 (株)クエスト コーポレーション	国有林野の現地調査については、災害等による危険箇所や立入禁止区域等職員が立ち入れない箇所、上空からのみ調査可能箇所等が多々あるため、マルチコプターの導入を図り調査等の円滑な実施を補助する。	15:45	
	17	国有林を活用した「下呂の森を巡るツアー」の開催 ～地域連携の視点から～	岐阜森林管理署	下呂市みどりの祭実行委員会と連携し全国育樹祭下呂サテライト行事のプレイベントを、NPO森のなりわい研究所の協力を得て開催した「下呂の森を巡るツアー」を地域連携の視点で報告する。	16:00	
森林保全	18	イヌワシ生息地の森林環境保全整備事業箇所における餌動物の利用状況について	東信森林管理署 (株)環境アセスメントセンター	東信森林管理署管内のイヌワシ生息地において、森林環境保全のための皆伐施業が行われた。本発表では、施業後4年間におけるイヌワシの餌動物の利用状況について報告する。	16:15	
	19	南アルプス山麓におけるモバイルカリングの取組	南信森林管理署 (株)野生動物保護管理事務所	今後、主伐・再造林を積極的に進めていく上で課題となるニホンジカの個体数調整について、様々な取り組みが行われているが、今回、南アルプス山麓において地元自治体、猟友会等と連携により管内で初めてモバイルカリングによる捕獲の取り組みを発表。	16:30	
講評等 (16:45～)						

第2日目（2月3日）

発表部門	番号	課題名	発表概要		開始時刻
森林保全	20	ニホンジカ囲いワナわなによる効果的な捕獲について	中部森林管理局 計画課 (株)Foresters PRO	ニホンジカの急激な増加等に伴い農林業及び高山帯への食害が拡大している。囲いワナは、比較的簡単に設置、大量捕獲が期待でき、捕獲したシカを生体のまま獣肉処理施設に搬入することができる等の利点がある。中部森林管理局では、囲いワナの技術を一般に普及する目的で平成23年度から設置を始め、今年度5年を経過したことから効果的な捕獲方法について報告する。	10:00
	21	立木利用防止シカ柵の設置試験について	東濃森林管理署	木杭によるシカ柵設置が経費・労働の両面で高コスト。主伐再造林等によるシカ柵作業の増加に対し、低コスト仕様の選択肢の確立を目的として実施した設置試験取組の報告。	10:15
	22	南木曽支署におけるニホンジカ対策の取組について ープロジェクトチームによる活動ー	南木曽支署	ニホンジカ被害の未然防止のため、職員で構成するプロジェクトチームによる組織的な監視体制の整備及び地元猟友会と連携した捕獲体制構築に向けての取組事例の報告。	10:30
森林技術	23	高齢ヒノキの樹高成長量及びそれと幹肥大成長量の関係	岐阜県立森林文化アカデミー 森林技術支援センター	岐阜県・愛知県のヒノキ高齢人工林6林分における直近の樹高成長を明らかにし、その内3林分における樹高成長量と幹肥大成長量の関係を検討する。	10:45
	24	航空レーザーデータを活用した樹高・本数密度の把握手法の提案	岐阜県立森林文化アカデミー	長野県は、治山事業において、県内の民有林全域の航空レーザーデータを取得している。その航空レーザーデータを活用し、林分の樹高及び密度の把握を試みる。	11:00
	25	カラマツ天然更新林分における間伐時の生産性	信州大学 農学部	天然更新林分では立木配置が種子散布に左右され、人工林とは異なる林分構造を呈すると考えられる。本研究ではカラマツ天然更新林分における間伐時の生産性を人工林と比較した。	11:15
	26	多機能な森林業への転換	たかやま林業・建設業協同組合	屋根型作業道を利用したトラクター式林業機械の作業システムと、生態系に配慮した排水施設施工の効果と今後の目指すべき林業について。	11:30
森林保全	27	長野県における野生鳥獣被害防止対策について	長野県 林業大学校	近年、長野県内では野生鳥獣による農林業被害が深刻になっている。この事態はただ農林産物へ被害が及ぶだけでなく、中山間地域においては集落機能の低下を招くなど、様々な問題を引き起こしている。そこで、各被害地で対策が実施されているが、被害状況、対策方法等について調査したので報告する。	11:45
	休憩（12:00～13:00）				
	28	水源林造成事業におけるクマ剥ぎ防止対策について	森林総合研究所 森林整備センター 中部整備局 富山 水源林整備事務所	ツキノワグマによる剥皮被害（クマハギ）を防除のために樹幹にロープを巻く対策を行っている。 その防除効果について、実施区域と未実施区域で比較検証した調査報告。	13:00
29	モノレール活用事例研究	木曽青峰 高等学校	本校では2年前より演習林内にモノレールの設置に取り組んでいます。この方法は林床を傷つけることがなく、土壌の流失を防止でき、林道にかわる有効な搬出方法です。	13:15	
森林ふれあい	30	木曽の伝統・漆に学ぶ	長野県 林業大学校	森林資源を有効活用しつつ、地域の文化を発信していく方法はないか。昨年の自主学習発表会以来、ずっと考えていた問いに木曽の漆器づくりが当てはまるのではないかしら、平沢地区に学習に赴いた。また、そこで見たことを参考に自分でも漆塗りに挑戦してみた。ここではこの一連の学習についてまとめ、地域内で漆器づくりをしていく可能性について考察することとする。	13:30
	31	材木屋が考える六次産業化	岐阜県立森林文化アカデミー	材木屋の強みを生かして、伐採現場から調達した規格外の原木を製材・加工し、DIYユーザー向けに木材の販売を行う六次産業化の事例を報告する。	13:45
講評・審査結果・表彰等（14:00～）					